

令和2年度小牧市自殺対策推進協議会議事録

【日時】令和2年11月5日（木）午後2時から3時

【場所】小牧市保健センター 2階 大会議室

【傍聴者】3名

【出席者】15名

佐部利了委員、佐橋延務委員、青木清委員（代理 山城久實枝）、
山田幸男委員、田中秀治委員、村田ヤス委員、伴野純二委員、
山本恒子委員、丹羽正幸委員、兼子正巳委員（代理 大久保和則）、
勝山貴之委員、山本格史委員、西島宏之委員、長縄靖委員、
川尻卓哉委員（代理 岡本弥生）

【欠席者】3名

青木清委員、兼子正巳委員、川尻卓哉委員

【事務局】

入江慎介健康生きがい支えあい推進部長

江口全幸健康生きがい支えあい推進部次長、

泉重雄保健センター所長、野口弘美保健センター所長補佐

宮田祐子保健師、長谷川真弓保健師

【次第】

1 開会

2 部長挨拶

3 会長挨拶

4 議題

(1) 小牧市自殺対策計画について

(2) 小牧市の自殺の現状と自殺対策に関連する取組について

(3) 自殺対策に関する意見交換

(4) その他

・欠席された委員の方からの意見について

・市民向けゲートキーパー養成講座について

5 閉会

令和2年度小牧市自殺対策推進協議会議事録

令和2年11月5日(木)

午後2時00分～

保健センター 大会議室

事務局	<p>定刻になりましたので、ただいまから「令和2年度小牧市自殺対策推進協議会」を開催させていただきます。</p> <p>本日は、ご多用の中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。</p> <p>司会を務めさせていただきます、所長補佐の野口でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本日は連合愛知尾張中地区協議会 青木 清様、学校教育課指導主事 兼子 正巳様、子育て世代包括支援センター 川尻 卓哉様よりご欠席とのご連絡をいただいております。なお、青木様の代理として連合愛知尾張中地区協議会幹事 山城 久實枝様、学校教育課 兼子様の代理とし指導主事 大久保 和則様、川尻様の代理として子育て世代包括支援センター副所長 岡本 弥生様にご出席いただいております。本日の資料ですが、事前に配布させて頂きましたがお持ちでない方はいらっしゃいますでしょうか。事務局までお申し付けください。</p> <p>本日は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、マスクの着用、会場の換気を行いますので、ご協力のほど、宜しくお願いいたします。</p> <p>この会議につきましては、公開となっておりますので、事務局で会議録を作成し、ホームページ等で公開させていただきますのでお願いいたします。</p> <p>本日の傍聴は3名でございます。</p> <p>次に、今回より新たに委員となられた方及び人事異動により交代となりました方について、ご紹介させていただきます。</p> <p>小中学校PTA連絡協議会応時中学校母親代表 村田 ヤス様 小牧市区長会連合副会長 伴野 純二様 市民安全課長 長縄 靖様 地域包括ケア推進課長 西島 宏之様 4名でございます。</p> <p>本来ならば、委嘱状をお一人ずつお渡しするのが本意でございますが、時間の都合上、机上での交付をさせていただきましたのでよろしくお願い致します。</p> <p>続きまして、委員のご紹介についてですが、机上に配布させて頂きました委員名簿をもって、自己紹介に代えさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、健康生きがい支え合い推進部長の入江よりごあいさつを申し上げます。</p>
部長	<p>皆さん、改めまして、こんにちは。市役所健康生きがい支え合い推進部長の入江と申します。宜しくお願いいたします。委員の皆様におかれ</p>

	<p>ましては大変お忙しい中、自殺対策推進協議会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。また、日頃から本市の保健行政をはじめ、行政各般にわたりご理解とご協力を賜って下さること、この場を借りて深く感謝しております。</p> <p>さて、全国の自殺者数であります。平成10年の年間3万人を超える状況から高止り傾向が続き、平成22年以降は減少に転じておりましたが、新型コロナウイルスの影響もございます。本年は7月から増加傾向にあります。</p> <p>こうした中、本市では令和元年度から6年度までを計画期間とする、小牧市自殺対策計画を策定いたしまして『『こころ』と『いのち』を大切に、気づき、つながり、みんなで支えあうまち こまき』を基本理念と致しまして各種の取組みを推進しているところであります。</p> <p>自殺に追い込まれるという危機は「誰にでも起こり得る危機」でありますので、いかにそのサインに早期に気づいて、適切な支援に結びつけていけるかが重要でありまして、そのために構築していく必要があると考えております。</p> <p>本日の会議では、本市の自殺対策計画、昨年度の取組の報告、今年度の進捗状況等についてを議題としております。本日委員の皆様から頂いたご意見等をもとに、今後の施策に活かしていきたいと考えておりますので、皆様からは忌憚のないご意見をいただけることをお願い申し上げます。簡単ではありますが、会議を始めるのにあたりましてのご挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>続きまして、本協議会の会長であります佐部利会長からご挨拶頂きたいと思っております。</p>
会長	<p>小牧市民病院で精神科医師として、また小牧市役所の市職員のメンタルヘルスに携わっております産業医の佐部利といいます。自殺問題から関連するハラスメント等に近年は直面することも多くなっています。今回扱うテーマの中に散見するように、いろんな社会のいろんな分野で、抑鬱だったり、結論的には自殺をするしかない人たちが少なからずいて、そういった方々の対応というのが、この場にいる方は携わることが多いかと思っております。包括的に一人の人間を合い対して支えるということを実に忘れることなく、関わっていただけるよう、しっかりとした協議がなされるようご協力をお願いします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。それでは、ここから議事に入らせていただきます。以降は、会長に議事の進行をお願いします。</p>
会長	<p>それでは議題に入ります。議題(1)「小牧市自殺対策計画について」事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>資料3の1ページをお願いします。</p> <p>本計画は、「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現を目指し、平成31年3月『小牧市自殺対策計画』を策定いたしました。</p>

小牧市自殺対策計画では、計画の最終年度である令和6年度までに、小牧市の自殺死亡率を平成27年の自殺死亡率23.4から17.7以下にすることを目標としております。

2ページをお願いします。

自殺対策計画の基本理念と基本目標です。

小牧市では、『「こころ」と「いのち」を大切に、気づき、つながり、みんなで支えあうまち こまき』を基本理念とし、その実現に向けて3つの基本目標を設定しております。

3ページをお願いします。

小牧市自殺対策計画における重点取組は4つあります。

「国や県では、10歳代の自殺者数が減少しないこと」から『生と性のカリキュラムの推進』、「本市においては、働く世代の男性に自殺者の割合が高いこと」から『事業所等での「こころの健康」に関する出前講座』、また、「自殺に関係する機関が日頃から連携できる体制づくりが必要であること」から、『うつ・自殺対策相談窓口ネットワーク会議の開催』、そして「自殺の危険を示すサインに気づき、必要な支援につなげることができる身近な人を地域で増やし、自殺に至る人を減らせる」ように『ゲートキーパー養成講座の開催』を重点取組みとして設定しています。それぞれ、令和6年度に、基準値より上向きになるように取り組みを進めてまいります。

令和元年度と今年度、現在までの実績については、後ほど、説明いたします。

続いて、資料4をご覧ください。

小牧市における自殺対策に係る取組等の関連図について説明させていただきます。

小牧市自殺対策計画を柱として、その進捗管理を行う、本日の会議「小牧市自殺対策推進協議会」がごございます。

関連図の左側に「様々な悩み」と表記している図がごございます。

自殺にいたる経緯について載せたものです。自殺にいたる前の様々な悩みを抱える方について早期に支援につなげられるよう、担当課で相談やサービスの提供など、事業を推進しています。必要に応じて、それぞれ必要な支援先の紹介や連携をとって相談者の支援を行っています。

この連携をとりやすくするために、「うつ・自殺対策相談窓口ネットワーク会議」を、庁内外の相談窓口に関わる職員対象に開催しております。

また、「庁内連絡会議」では、それぞれの課で実施している事業について、自殺対策という視点から見たときにどのように事業を進めていくとよいかを検討しています。

これらから庁内、庁外各関係機関と連携をはかりながら自殺対策を進めていくことが重要と考えおります。

以上で、「小牧市自殺対策計画について」、説明を終わります。

<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>説明のありました「小牧市自殺対策計画について」ご意見はありますか。</p> <p>ご意見がないようでしたら、続いて議題(2)「小牧市の自殺の現状と自殺対策に関連する取組みについて」を事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>保健センターの保健師の長谷川と申します。宜しくお願ひいたします。資料5をお願いします。</p> <p>小牧市の自殺者の現状は資料、表のとおり、増減を繰り返し、2016年を機にやや増加傾向にあります。</p> <p>計画目標値は人口10万人あたり17.7人以下ですが、昨年度は人口10万人あたり18.3人、実数としては28人となり、計画目標値、また国や県より多い状況です。</p> <p>年代別・男女別自殺者の状況です。2014年～2016年、2017年～2019年と6年間の結果、40代の自殺者数の割合が最も高くなっています。そして2014年からの3年間より2016年の3年間で10代の割合が2倍以上増加しています。</p> <p>続いて、男女比で見ると男性の割合が高いですが、2014年から2016年の3年間から、2017年から2019年の3年間でみると、男性の自殺者数としては77人から39人へと半数ほどに減少しています。しかし、女性に関しては23人から24人とほぼ横ばいです。</p> <p>男性は、企業の倒産等、社会の影響を受けやすいと言われていました。今年度は、コロナ禍で経済が大きく停滞し、事業の倒産や収入の大幅な減少に見舞われる方の増加かが考えられ、自殺へと追い込まれる方が増加しかねない状況にあります。</p> <p>また、女性はそういった社会の影響を受けにくいということも言われています。しかし、10月12日付で、愛知県より自殺者に関する通知があり、本県では7月から自殺者が増加している状況で、特に女性の増加が大きい状況であると通知があり、支援の必要性が考えられます。</p> <p>つづいて2頁をご覧ください。次に、職業別の状況ですが、被雇用人・勤め人や年金・雇用保険者の割合が高く、これは、国や県と同じ傾向となっています。また、ここ6年の間で、学生の人数が2人から6人へ増加しています。</p> <p>次に、原因・動機別ですが、圧倒的に高いのは健康問題、次いで、経済・生活問題となっています。</p> <p>参考資料1をご覧ください。</p> <p>今年8月愛知県内の自殺者数が昨年度同月より6割増加し、全国でも2番目に自殺者が多いという結果となりました。それを受け、愛知県知事が県民に対して緊急メッセージを発表しました。県の状況からもわかるように、今年度のコロナ禍において、「死にたい」「死ぬしかない」と追い詰められた方が増加していることは事実です。そしてこのことから、自殺にはいたっていないが、追い詰められかねない方が非常に多く</p>

いることは推察されます。小牧市でも今年度自死されている方が何名かいらっしゃり、より自殺対策を強化していく必要があります。

資料5に戻って頂き、3頁の図をご覧ください。

自殺に傾く人の心理特徴は「きまじめで柔軟性がなく、困ったことを表現しないため、心配ごとを一人で抱え込みやすい」という特徴があるといわれており、精神疾患が自殺の引き金というわけではなく、自殺に至るにはさまざまな要因があります。

この図にもある通り、日常のありふれた問題が複雑化して、健康問題だけでなく、仕事や家族、学校、近隣問題等、抱える問題が連鎖しています。

特別な人が、特別な理由で自殺に至っているわけではありません。自殺に気持ちが傾く1歩手前にはたくさんの要因があります。

「仕事が減って収入がない」「子育てが大変」「自粛で自粛、家にいることが苦痛。」

おそらく、皆様も日頃から、市民や周りの方からこのような言葉・問題を受け止めているのではないのでしょうか。直接的な悩み事というよりも、日々の会話の中で対象者が、大変に感じていること、生活の中でやりづらく感じていることを、そういった訴えを感じることもあるかと思えます。

このような言葉は、自殺に傾く2・3歩手前の要因に繋がっているかもしれません。この手前の要因に対する対策が、今、必要と考えられます。

続いて資料6をお願いします。

小牧市自殺対策計画に記載されている関連事業の取組み状況について、昨年度の実績をまとめました。

そのうち、重点取組みとして挙げられている4つの取組みについて、ご説明いたします。

資料6の1ページをお願いします。

まず1つ目は、「生と性のカリキュラムの推進」についてです。

市内の小中学校・高校と連携し、授業を通して子どもたちの自己肯定感を醸成するとともに、「安心相談カード」を配布し、様々な悩みの相談先について周知します。

指標としては『生と性のカリキュラム』の受講後、『自分を大切にしよう』と思う中学生の割合をあげています。令和元年度回答があったアンケートを集計したところ、「93.3%」の中学生が「自分のことを大切にしようと思いますか」の設問に「そう思う」または「まあそう思う」と答えています。今年度は、現在実施した中学校は1校のみですが、これから実施をすすめていきます。

続いて、「事業所等での『こころの健康』に関する出前講座の実施回数」については、令和元年度は2回実施いたしました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、出前講座全体の件数が減少している状況ですが、今後、健康づくりの出前講座の依頼があった事業所に対して、こころの健康に関する情報を伝えていきたいと考えております。

	<p>2 ページをお願いします。</p> <p>うつ・自殺対策相談窓口ネットワーク会議についてです。指標はこの会議の開催数をあげています。</p> <p>令和元年度は1回開催いたしました。庁内外各関係部署の方30名にご出席いただき情報交換を行いました。</p> <p>今年度に関しては、書面会議を含む2回実施を予定しております。1回目は各関係機関の役割、情報共有し、2回目は名古屋いのちの電話協会 兼田氏を迎え、相談窓口担当者に対しての支援者研修を予定しております。</p> <p>3 ページをお願いします。</p> <p>続いて、ゲートキーパーの養成について報告します。指標はゲートキーパー養成講座受講者数としております。1年度ごとの受講者数を指標としてあげております。令和元年度は、職員対象に1回、保健連絡員対象に2回実施しております。市民対象には3月に1回予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。</p> <p>今年度は、10月より保健連絡員向けのゲートキーパー養成講座が始まりました。令和3年2月には職員向け講座を予定しています。今年度は管理職向け、一般職向けと2部構成とし実施する予定です。</p> <p>市民向けにとしては、3月の自殺対策強化月間にあわせてうつ専門カウンセラーの澤登氏を招いて開催する予定です。実際にうつになりマンションの最上階から飛び降りた経験のある方で、委員の皆様もぜひご参加くださいますようお願いいたします。</p> <p>資料7をご覧ください。各課におけるさまざまな事業や取組みを載せさせていただきますいております。</p> <p>自殺計画にもあがるこれらの事業は、どんな事業も、市民と関わる中で自殺を防ぐことにつながる可能性があると思います。</p> <p>色々な悩みの種が大きく育つ前にその芽を摘むことが必要であり、各関連事業においてもそういった視点をもっていけるとよいと考えております。</p> <p>以上で、取組報告を終わります。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>説明のありました「小牧市の自殺の現状と自殺対策に関連する取組みについて」ですがご意見はありますか。</p>
佐橋委員	<p>民生委員の佐橋でございます。</p> <p>2 ページのところの資料5に年代別・男女別の自殺者の状況、職業別の自殺者の状況、自殺の原因・動機とあります。この表からは、自殺者の中で40代が多いとか、年金・雇用保険生活者が多いとか、健康問題で自殺される方が多いとかありますが、勤め人か高齢者が健康問題について多いと推測されますが、どの年代が健康問題で自殺者が多いかわかりづらいので、わかれば教えてください。</p>
会長	<p>職業と年代とを併せた形でデータ分析ができているかというようなお尋ねかと思いますが、事務局いかがでしょうか。</p>

事務局	<p>ご意見ありがとうございます。資料5の2ページの自殺の原因と動機 の健康問題が突出していることについてのお尋ねですが、原因について は1人の方が複数の問題を抱えており、延べ数となっております。</p> <p>表のとおり、小牧市では、40代男性が多く健康問題続いて経済問題 を抱えていたという傾向がみえるかと思えます。</p> <p>厚生労働省からの「地域における自殺の基礎資料」を用いているた め、提供出来る情報を検討し回答したいと思います。</p>
会長	<p>実数が少ないとはいえ、職業別、年代別で分析ができましたらお願い します。ウェブでこの資料も併せて開示するというのでしょうか。</p>
事務局	<p>この会議は公開となっておりますので、議事録と併せて資料も公開と なります。</p>
会長	<p>難しければ仕方ないですが、もし可能であればそれと併せてお願いで きればと思います。ご検討いただければと思います。</p>
事務局	<p>今後の課題とさせていただきたいのですが、この会議で提供した資料 のみの公開となりますので、新たな資料としては委員のお目通りがない ため出すことはありませんので、ご了承ください。</p>
会長	<p>他にご意見、ご質問はありませんでしょうか。</p> <p>では、続きまして議題(3)の自殺対策に関わる意見交換に移ります。 事務局より議題はありますか。</p>
事務局	<p>事務局より、「自殺対策に関わる人材の養成と資質の向上に関する取 組みについて」委員の皆様にご意見頂きたいことがあります。</p> <p>皆さん、ゲートキーパーはご存じでしょうか。参考資料2をご覧くだ さい。今年度、保健連絡員対象ゲートキーパー養成講座で配布している 資料です。自殺に至るまでは経済、健康、家庭問題等の生きることの阻 害要因、約4つの要因が重なり、心理的視野狭窄となり自殺に傾くとい われています。その心理的視野狭窄に陥るまえに支援が入ることで、自 殺予防になります。そのために今、ゲートキーパーが必要と言われてい ます。ゲートキーパーは特別な資格ではありません。家族の中、同僚同 士、近所づきあいの中、誰もが誰かのゲートキーパーです。小牧市の特 徴として、自殺者の多くは同居人がいる方です。このことは、悩みを抱 えた者の周りに、その方の悩みのサインが気づける可能性がある方がい るとも考えられます。「最近どう?」「眠れてないみたいだけど」等の声 をかけたり、介入することで自殺までに至らなかつたかもしれません。</p> <p>小牧市では市民、保健連絡員、職員対象にゲートキーパー養成講座を 例年実施しております。また自殺予防街頭キャンペーンを9月の自殺予 防週間、3月の自殺対策強化月間で実施しております。</p> <p>市民がゲートキーパーとして担えるようにするには、意識をもつに は、どんな施策、工夫が必要でしょうか。講座をより多くの方に周知し たり、ゲートキーパーとしての意識を持ってもらうための工夫につい て、ご意見頂きたいと思えます。</p>
会長	<p>本協議会では、相談窓口を設けている市役所の担当課の課長様はもと より、地域の代表として区長様やPTA代表の方、民生委員の方にもご 出席をいただいております。また、勤労者ということで、労働における</p>

	<p>ご意見や、警察・消防署など、現場の意見等、皆様の所属されている様々な立場からのご意見をいただける貴重な機会となります。</p> <p>皆様のご意見を頂戴したいと思います。</p> <p>また、自分の所属の立場で取組めそうなことや、小牧市の自殺対策において何が必要かなどについてもご意見がいただけますと、小牧市の自殺対策を進めていく上で、より現状に即した取組みが検討できるかと思えます。それでは、ご意見を頂戴したいと思います。意見のある方挙手をお願いします。</p>
青木委員 (代理：山城)	<p>連合愛知尾張中地域協議会の山城と申します。2点お願いします。</p> <p>ゲートキーパーの養成の目標値をどのくらいと考えているのかと、ゲートキーパーの養成は各市町で取組みが進められているかと思えますが、あくまでボランティアとすることをおさえておく必要がある。「死にたい」と思っている人たちを本当に支えるという意味で、ボランティアがどこまでできるか、またその担い手が継続的に支援できる仕組みや、ボランティアばかりに頼らない仕組みが大変重要だと思っていますけれども、そのあたり事務局としてどのように考えているか教えてください。</p>
事務局	<p>ゲートキーパーというのは、その方の様子に気づいて傾聴し、必要な支援につなげていただく方、市民の多くの方にそのような気持ちを持って頂き、声をかけていただける方を増やしていきたいと考えております。それ自体がやらなければならないボランティアではなく、市民の方がそのような気持ちを持って人と接していただけるよう、保健センターとしては講座を開催していきたいと考えております。人数は、より多くの方に関心を持って受けていただけるよう、市として取り組んでいきたいと考えておりますので、ご意見をいただけたらと思えます。</p> <p>支援体制につきましては、資料4にもありますように、保健センター主催の「うつ・自殺対策相談窓口ネットワーク会議」に出席いただく方々に、事例検討などを行いながら、気づき、聴き、つないでいくようなスキルアップのための講座を行っていきます。それから市民の方々にも、ゲートキーパー養成講座を行っていきゲートキーパーを知って頂きたいと思っています。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>なかなか鋭い部分だと思いますけれども、ボランティアという不確定な要素に対して、良いサポーターに持続的に機能できるようにすることが質疑者の意図だと思われまますので、そのあたりをくみ取りながらご検討ください。他に意見ありますか。</p>
佐橋委員	<p>民生委員の立場からですが、民生委員の一人として、毎日ゲートキーパー的な役割が果たせるよう毎日務めさせていただいておりますが、民生委員は昨年の12月に改選されまして、はっきりした人数はわかりませんが、半分くらいの方が新しく選出されていますが、現在は毎月地区ごとに会が開かれております。その席に、担当の方が5分、10分でもいいので自殺予防についての意見交換が持てるような場を設けていただくと、より理解が深まるかと思えます。コロナが落ち着いたら是非、実現していただけたらと思えます。以上です。</p>

会長	ご意見ありがとうございます。事務局お願いします。
事務局	ご意見ありがとうございます。先ほどのご意見とも関係するのですが、保健センターでも地域や色々な方に知っていただくために、また民生委員はボランティアという立場ですので、出来れば何回も聞いていただいて思い起こしていただけるよう保健師がご希望の団体へお伺いし、説明させていただいております。
会長	ありがとうございます。
事務局	ゲートキーパーについてですが、市民の方と接することが多い民生委員の方ですとか、保健連絡員の方を中心に養成を進めています。今お話しさせていただいたように、普段と違うことに気づいたら、相談機関につないでいただくところを意識しておりますので、個人のできる範囲で取り組んでいただければと思います。このため、相手の話の聞き方ですとか伝え方などを講座でお伝えさせていただいているところです。その後は専門機関できっちりとフォローアップしていく必要がありますので、先ほどのうつ・自殺の窓口ネットワークというところで、専門職が集まって専門機関でどのようなバックアップ体制をとっていくといいか、検討しているという本市としての動きです。以上です。
会長	ありがとうございます。ゲートキーパー以外でもあればご意見どうぞ。
佐橋委員	交通事故や労働災害などに遭われた方などは、きっと自殺を考えられた時もあるかと思います。将来を悲観して「死のう」と思った人が、ぜひ小中学校に出かけていただいて子どもたちに力強く生きること「生きる力」の話を聞ける機会を設けて、子どもさんがそのような境遇にあっても強く生きていく力が身につくのではないかなと思います。もし機会がありましたら、学校にそのような時間を設けていただけたらと思います。以上です。
会長	ありがとうございます。

<p>伴野委員</p>	<p>地域代表、区長という立場で出させていただいておりますが、地域に過大な期待を持たないでほしいということを、まず頭に入れていただきたい。実際に今、地域協議会で「絆」ということが出てきておりますが、そういったことが希薄になってきているし、私も10年やってきましたが、本当に無意味な10年だったなと今は思います。その中での話ですがこの「ゲートキーパー」という言葉を初めて聞きました。「認知症サポーター」ここ2,3年聞きました。お話を聞いていると保健センターの連絡員さんや民生委員さんを対象にこの話はされている。我々は申し訳ないが知らない、希薄ななかでなり手がないうちで、やられている。その中でゲートキーパーなど色々な講習を受けています。特にゲートキーパーは「命の番人」という非常に重いですね。その重い内容を保健連絡員さんや民生委員さんに押し付けるのは、本当に申し訳ないと思います。命がかかっていますからいくら間に立ってと言われても、すごく重荷になると思います。今の小牧市の中ではできませんが、そのような話を聞く人が押しつぶされないような取り組みが必要かと思えます。</p> <p>自殺しようと思ったことはないが、人を殺したいと思ったことはあるんですよね。だけど人を殺そうと思ったときに、ふと人を殺したら自分がダメになると気づきますよね、そういった気づかせる、それもゲートキーパーかと思えます。個人的なことですが、相談を受ける人の状況を聞けば聞くほど話を聞く人は重くて押しつぶされてしまう地域に過大な期待はしてほしくないです。地域協議会としても精一杯やっていますから。地域協議会もこの先どうなるかわからないですが、地域の中でもやる人やらない人がはっきりしてきていて、やらない人の方が多いと思います。いくつか混ぜて意見を言いましたが、地域に期待をしないでほしい、ゲートキーパーとなる人を支える方の人への対策を考えてほしい。この2点をおさえていただきたいと思えます。</p>
<p>会長</p>	<p>かなり本音でご意見頂き、ありがとうございます。</p> <p>大事な観点だと思います。真面目にやればやるだけ、その人だけに重荷がかかると思えます。特にこの事業については否定できない側面だと思います。即答はできないかもしれませんが、事務局何かありますでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございます。色々な方々がゲートキーパーを担ってくださっていますが、その方々に解決していただく必要はないと思っています。保健センターには私たち保健師がいますので、その方が悩んでいる方から話を聞いて、重荷と感じているところを一緒に共有して地区担当保健師が問題解決に向けて寄り添って努めていけたらと思います。またゲートキーパーというのは、うつ・自殺という側面だけでなく、例えば家族間で「ちょっと食欲ないね」などの気づく視点など含まれています。うつ・自殺対策相談窓口ネットワーク会議でもありましたが、ゲートキーパーの重荷が重荷にならないよう、専門職と一緒に相談体制を整えていけたらと考えております。</p>

伴野委員	<p>建前はよくわかりますが、当事者が本音で話をするのですから受ける側の人も本音をさらけ出さなきゃいけない訳ですよ。相談で泣きながら解決していく、そういう現場を見ています。お互い泣きながら話をしていますから、仲介する間もなく、既に重いものを背負っている訳ですよ。そこをどのようにフォローしていくかということだと思います。</p>
会長	<p>ちょっと難しい問題です。私は精神科医ですので、そのようなことは連日直面していますが、一つの考え方と言えます。要は多職種だと思いませんか、しない方がいいのかなと思います。先ほど伴野委員がおっしゃったように、別の医者じゃないところでは一緒に泣くということもあるかと思えます。何が言いたいかというところ、色々な役割によって、違う接し方で接していただく、各市の色々な接し方があることで、ご本人は助かると思えます。結局、一人での支援では難しいでしょうね。</p> <p>私も精神科医をやっていて背水の陣になることが多いですけど、「一人でやって無理だ」と思ったら入院をしてもらったり、他院をご紹介したり、病院のケースワーカーに依頼しながら、看護師など色々協力してもらえる人を考えていく。ある程度自分で頑張ったうえで、多職種に切り替えて解決するのが現実的かなと思います。市民の方々に関わり始めたときに「手に負えない」と感じ始めたときに、いち早く相談ができる窓口の一つが、保健センターのようなものがあるといいのかなと思います。体制として考えたとき、建前ということも出てきますけれども、24時間体制でできるか、具体的な問題も出てきますので、簡単に解決できない問題かと思えます。</p>
事務局	<p>伴野委員のご意見は、ごもっともかなと思います。</p> <p>今、特効薬的にこういう体制ということをお答えするのは難しいのですが、少なくとも我々行政職員ですとか相談窓口に従事する職員が、ゲートキーパーの方も大きな負担を感じていることを意識した上で、施策や検討をしていく必要があると思っています。貴重なご意見をありがとうございました。</p>
会長	<p>他にご意見ありますでしょうか。</p>
青木委員 (代理：山城)	<p>相談窓口についてですが、市が持っています育児相談、少年相談、家庭児童相談などですが、相談時間帯が朝の9時半から夕方5時までです。例えば、子どもさんにしてみれば学校へ行っている時間帯で、メールでも対応もされているようですが、本当に仕事している時間帯でしか電話相談ができない状況にある中で、例えば土曜、日曜だとか、月1、2回でもいいので相談窓口を広げてみてはどうでしょうか。若い世代ですとLINEですとかチャットなどのSNSを活用して相談窓口の幅を広げてもいいのかなと思いますので、どのようなお考えか教えてください。</p>

事務局	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>今年6月と9月に市のホームページとツイッター、LINE等で相談窓口一覧を市民の方にはお知らせさせていただいております。市役所営業時間内の相談が多いですが、「生きづらビット」やLINEでの相談、いのちの電話のような24時間受付している相談窓口を随時ご紹介させていただいておりますので、このような相談先をご利用いただけたらと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。色々ありますけれども、時間も限られておりますので、よければ次の議題、課題について、事務局からありますでしょうか。</p>
事務局	<p>今年度は、コロナ禍で生活様式の変化等に伴い、貴所属部署・立場で対応する市民の抱える問題や市民から聞かれる声に変化を感じる部署があれば教えて頂きたいと思います。また、今後どのような自殺予防に関する課題が考えられるか、ご意見頂きたいと思います。</p>
会長	<p>意見のある方、挙手をお願いいたします。</p>
勝山委員	<p>福祉総務課の勝山です。福祉総務課は、相談窓口として生活保護と生活保護に陥る前の生活困窮者自立支援の相談を行っております。やはりコロナ禍ということもありまして、相談件数はかなり増えてきております。9月までの6か月間で、年度比で見ますと、昨年82件だった生活困窮者の相談が、今年度は454件と5倍ほどに増えております。また生活保護の相談件数につきましては、244件から241件と相談件数自体は変わりませんが、生活保護の受給件数は873世帯と過去最高になっております。</p> <p>春日井管内の有効求人倍率ですとか、完全失業率を鑑みますと、今後ますます生活が苦しくなる家庭が増えるのではないかと考えております。</p> <p>そうした中で、生活困窮者の窓口では、希死念慮を具体的に訴えられる方はいらっしゃいません。ただ、経済的な困窮による自殺を生まないように相談員は緊張して対応しております。またそのような相談がありましたら、関係機関につないでいけたらと考えております。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございます。経済的困窮を認識している1人としてこの実態を聞いて驚きました。他に意見のある方はいらっしゃいますか。</p>

<p>川尻委員 (代理：岡本)</p>	<p>子育て世代包括支援センターから代理出席しております岡本と申します。</p> <p>私どもの部署では、妊娠、出産からの支援ということで、妊娠届出時からの相談を実施しております。国の統計で全国的に妊娠届け出者数が1割弱程度減少しているというニュースがありましたが、小牧市もそれと同様に1割程度の減少が認められています。また、コロナが直接的な原因となっているかはっきりとは言えませんが、感覚としてこの秋から冬にかけて出産をされる妊婦さんに飛込み出産や妊娠届出時期の遅れですとか、妊婦健診の未受診、出産に影響を及ぼすほどの生活基盤の弱さなどの要因から積極的な支援を要する、いわゆる困難ケース、特定妊婦という方たちが多く、調べてみると昨年と比べて1.5倍に増加しているという現状がございました。また、今の子産の現状についてですが、コロナ禍で出産の環境が大きく変わっております。通院や入院に夫やお子さんをはじめとした親族の付き添いができなかったり、面会そのものがまだ解除されていない産婦人科医院も多く、家族と温かい雰囲気の中で出産ができなかったり、お婆ちゃんが小牧に来られない、自分が怖くて地方に帰れないなどで里帰り出産を断念したりと、産後に実家の手助けが得られず、思い描いたプランで出産ができない状況が続いています。子育て世代包括支援センターの事業についても産後ケア事業の利用実績に大きな変化はありませんが、現在も緊急事態宣言の頃と変わらず、各医療機関が感染対策指針に沿った面会制限が続いていますので、そのような状況が産後うつの引き金となったり、長期化に影響を及ぼすのではないかと考えています。また、相談事業については、子育てがコロナの影響で気軽に立ち寄る場所ではなくなっているのが現状です。感染対策の視点から人数制限や消毒のための入れ替え制や予約制など、現在でもそのような対応をとっており、気軽に自由に立ち寄れる場所ではなくなっているのが現状です。そのような状況下で、上手く利用できるお母さんとそうでないお母さんがいらっしゃると思いますので今後このような状況が、長期化することにより育児ノイローゼやうつ、最後には自殺ということも懸念されます。実態が見えにくい状況が続いています。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。まだご意見のある方はいらっしゃいますか。</p>
<p>兼子委員 (代理：大久保)</p>	<p>学校教育課の大久保といいます。学校教育課の方では、学校関係のことになるのですが、3月、4月、5月が休校となった関係から6月以降に虐待案件が急激に増えたような感覚でおります。3月4月5月が休校となったせいで、これまで見えていなかったものが見えてきたから増えてきたのか、休校中に家族の良い距離感が崩れてしまったのか、そういったことがどちらからの原因からかはっきりとは言えませんが、6月からは虐待案件、ネグレクトまたは夫婦の不仲による相談が増えてきている実感はあります。今後コロナ渦が続くと増えたままいくのではないかと心配しております。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>様々なところに影響があるということですが、他に誰かご意見はありますでしょうか。</p> <p>続きまして、議題(4)「その他」になります。事務局から何かありますか。</p>

事務局	<p>本日、ご欠席のご連絡をいただいております青木委員ですが、ご意見を頂戴しておりますので、この場でご報告させていただきます。小牧市自殺対策計画等一連の取り組みについては、敬意を表します。しかし小牧市役所としての事業所の自殺対策の取り組みとしては、不十分としか言い様がありません。</p> <p>悲しい出来事ではありますが、平成30年7月27日に女性上司のパワハラにより、若い男性職員が自殺をしました。テレビや新聞各社の報道で周知の事実と思います。小牧市は、原因究明と再発防止策を平成30年11月22日に公正公平な立場で第三者委員会を立ち上げ、委員会からの答申より、最終的にパワハラを認定し、公務災害基金もパワハラ認定し関係者の処分をしました。関係者の処分後、亡くなったご家族、弁護団には、市側からの説明はなく、原因究明並びに再発防止策についても不十分であるとの考えのものと、令和2年8月に小牧市側と家族弁護団、小牧市職員組合の三者による原因究明と再発防止策を求め協議の場の設置の要望をしました。小牧市側の回答は令和2年9月にあり原因究明は行わない、三者協議も行わないと耳を疑いたくなる回答でありました。そこで令和2年10月22日に再度の協議の場の設置の要望を行いました。家族弁護団と小牧市職員組合は、緊急記者会見を開き、その模様は広くNHKをはじめとする各社テレビ局、中日新聞や各新聞報道がされました。回答期限は今年24日になっています。今週もNHK、東海テレビ、共同通信社、中日新聞から状況確認の連絡が私の元に入っています。家族、弁護団の思いは記者会見で話したとおり、息子の死を無駄にしたくない、二度と小牧市役所で不幸な事件を起こしたくないの思いだけです。小牧市職員組合は、令和2年10月に組合員に対し行ったパワハラに関する調査では未だパワハラが存在し、相談窓口をはじめ、再発防止策も不十分との意見が多く寄せられています。小牧市の自殺対策計画などの一連の取り組みに意見するところはありませんが、冒頭申し上げたように一事業所としてはブラックとしか言い様がありません。この協議会の主催者である小牧市に対し、責任ある行動を望むところではありますが、まずは状況を広く周知したく、他の会議が重なり出席できないことをお詫び申し上げます、書面にて失礼させていただきます。今回はご意見のみいただきましたので書面の配布は致しません。以上です。</p>
会長	<p>その他に事務局から何かありますでしょうか。</p>
事務局	<p>先ほどの、自殺対策計画重点取り組みについての説明で触れましたが、令和3年3月7日（日）に市民向けゲートキーパー養成講座として公開講座を行います。</p> <p>今年3月に澤登先生をお招きし、ゲートキーパー養成講座を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止となりましたが、再度、先生の講演を予定することができました。澤登先生は、うつ病を乗り越えられ、現在「うつ専門カウンセラー、精神保健福祉士」として、さまざまな自治体等で講演を行っておられる方でございます。</p> <p>広報等で周知させていただきますが、ぜひご参加いただければと思います。よろしく申し上げます。</p>
会長	<p>それでは、以上をもちまして議事進行を終了します。事務局へお返しします。</p>

事務局	本日は皆様、お忙しい中、ご出席頂きありがとうございました。 これを持ちまして、令和2年度自殺対策推進協議会を終了いたします。 本日は誠にありがとうございました。
-----	--